

1. 評価結果概要表

作成日平成20年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	3771400458		
法人名	悠悠有限会社		
事業所名	グループホーム悠悠せんねん村		
所在地	香川県高松市香南町西庄692番地1 (電話)087-815-8522(梅) 087-815-8602(桜)		
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年9月12日	評価決定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 3月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算 12.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 一部 2階建ての1階部分
------	------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	500円	おやつ	200円
	または1日当たり 1,450円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	9名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 82.8歳	最低	50歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しげなり内科医院	高松平和病院	おさか脳神経外科病院
---------	----------	--------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、広大な庭(650坪)に季節の果物・花があり、また地理的には、丘陵地にあり自然環境に恵まれている。運営理念の「や」「さ」「し」「い」を利用者にあいさつ・声かけ等態度で示している。諸帳簿の記録は、様式・内容を工夫し適切になされている。表現力も優れている。年間研修計画が作成され、特に内部研修に力を入れ、月1回定期的の実施され、質の改善に全職員が全力で取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、家族への報告(金銭管理面)が改善課題であったが、管理者・職員が直ちに課題を共有すると共に、翌月より毎月定期的に金銭出納帳の写し・領収書を他の報告物と一緒に家族へ郵送するよう改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員が、共に話し合っ自己評価を行い、又各ユニットで年間目標(あいさつ)を決めて、積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、平成18年6月30日(第1回)より定期的開催されている。討議内容は、市町村担当者話し合い決めている。(新メンバー紹介、近況報告、家族からホームへの相談、苦情・要望、地域からの質問・要望等)地域からボランティアの紹介があり、レクリエーション・買い物などの外出時支援を受け入れている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム玄関には、ユニット毎に「要望箱」「苦情相談受付箱」が設置されている。又ホーム独自で現在「サービスのニーズ満足度」のアンケートを作成中で、今年11月に実施予定である。これが今後のサービスの質の向上に役立つことを期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常的に地域の人々や行事の交流は、行われている。今年の悠々事業所合同の第1回夏祭りには、地域より約300人も参加があり大盛況であった。自治会には未加入だが加入メリットを検討し、地域との益々の交流・連携に期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「や」優しい心、「さ」さわやかな笑顔、「し」信頼関係を大切に、「い」一緒に楽しくの運営理念がある。また、平成18年からは、地域にも「や」「さ」「し」「い」の理念に拡大している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関とか居間に理念を掲示している。管理者や職員は、常に理念を共有しユニットごとに目標を決めて実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事などの参加では、地域とお互いに交流しているが自治会には加入していない。	○	今年の悠悠事業所合同の第1回夏まつりには、地域より約300人もの参加があった。自治会に加入すると、今後地域との交流がますます広がると思われる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、共に話し合っって自己評価を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。外部評価の改善項目については、即話し合い翌月より改善実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域から行事、ボランティア(カトレアの会、キリスト教の人)の情報提案があり、買い物とかレクリエーションで出かけるときにボランティア支援として受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町関係部署にパンフレット、グループホームだよりを届けている。また、相談することがあるときは、聴いてもらっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族へ、お便り、写真、近況報告、金銭出納帳の写し、領収書を郵送にて報告している。職員異動時は、口頭または文書で伝えている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所の玄関に、ユニットごとに要望箱とか苦情受付箱が設けられている。当事業所独自でサービスのニーズ満足度に関するアンケートを準備中である。</p>	○	<p>現在作成中のサービスのニーズ満足度アンケートを本年11月頃実施予定であり、今後のサービスの質の向上に期待したい。</p>
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>産休(8か月)、育児休業(1年)がある場合は、早めに新しい職員を配置し、馴染みの関係確保および引継ぎがスムーズに行えるよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は、年間計画に添って毎月定期的に行っている。外部研修は、その都度連絡があり、希望すれば参加ができる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の福祉関係の連絡協議会(病院・特養・老健・居宅介護事業所・通所リハ・療養型・支援センター)が2か月に1回開催されている。内容は、事例検討、制度の勉強などお互いに連携をし質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所が決定した時点で、事業所より自宅、デイサービス、病院等へ数回訪問し、安心してサービス利用できるよう取り組んでいる。入所後は、状態に応じて外出、外泊も可能である。また、家族の協力があれば面会を調整し徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族の結婚式(孫)、法要、告別式、地域の敬老会に介助歩行して参加し喜怒哀楽を共にしたり、利用者から得意な歌を教えていただいたり共に支えあう関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、一人ひとりとの会話、行動、態度から利用者の希望・意向を把握すると共に、実践に向けて努力している。(例;この夏開店した大型店へ行きたい希望者が多く実施予定である。)		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が、よりよく暮らすために状態を十分にアセスメントし、本人・家族の要望もいれ、担当者会議で話し合い個々に応じた介護計画を作成している。主治医には、文書で照会し、意見をいただき計画に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(3か月ごと)とか状態が変化した時には、介護計画の見直しを行っている。本人・家族・医療関係者・職員が話合って介護計画が再作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族がホームに宿泊したい希望のある時は、簡易ベツ、布団を貸し出し本人と共に過ごせるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、かかりつけ医を決めている。主治医は、月1～2回ホームを訪問したり往診にも応じてくれる。救急時は、協力医療機関とは別に3病院と協定書を結んでおり、すぐに受け入れできる体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化やターミナルケアについて家族からの希望を聞いている。希望に変化があった時は、家族と主治医の面接結果を踏まえ再度話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を傷つけるような言葉かけは、聞かれなかった。独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成し個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのマイペースで楽しい暮らしができるよう、希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力量に合わせて食事の盛り付け、調理、配膳、片づけを職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日とか時間は、決まっているが利用者一人ひとりに合わせて柔軟に対応している。シャンプー、リンスは気に入ったものを使用している。竹酢液(殺菌作用・保温効果)とか薬草を入れて入浴を楽しむことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や出番が発揮できるよう、場面づくりを考えて支援している。(洗濯物をたたむ、献立を白板に書く、ニンニクの皮とりなど)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、広大(650坪)な庭や芝生広場を散歩したり、お茶を楽しんでいる。また、大型ショッピング店へ買い物、空港が近いので飛行機を見に行く、市内のホテルや百貨店などでお茶を楽しむなどの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることにより不穏症状が増すことをよく理解しており、問題の利用者は、傍に寄り添い安心できるように対応しているが、入所して間もない帰宅願望の強い利用者のいる時は、鍵をかけることがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に消防署の協力指導のもと避難訓練を行っている。その内一回は、夜間に実施し地域に協力支援をお願いしたら3人来所し協力を得た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	悠々事業所の栄養士が栄養バランスを考慮し、献立を作成している。食事量・水分摂取量を把握し記録している。人参、トマトの苦手な利用者には、細かく刻んでわからないようにする。また、水分を取りたがらない利用者には、ゼリーを作って水分量が確保できるよう個々にあった工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの玄関には、長椅子などが置いてあり利用者が腰掛けて、靴を履いたり脱いだりとっても便利である。居間は、天窓から柔らかい光が入り、空間が広く感じられると共にソファも置いたり自由にくつろげるよう配慮している。食卓には、庭で摘んだ小花が入れてあり、季節感を味わうことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと押入ようのクロゼットは用意しているが、その他(整理タンス・写真・装飾品・夜間のみ使用のポータブルトイレなど)馴染みのものを持参し、今までの生活を崩さない配慮もしている。		